

常勤医3名の地方の急性期病院で
男性医師1名が育休を取得しました
～地方急性期病院の育休のリアル～



熊本労災病院 耳鼻咽喉科
増田聖子 宮本祐亮 竹村隼也 植田寛之

医師Aは2月××日、医師Bに「相談したいことがある」と言われた。
医師Bは4月に赴任予定で、当院で初期研修後入局。8年ぶりに戻ってくる。
医師Aは医師Bが来るのを楽しみにしていたので、飲みに行くことにした。



「あの・・・5月末に子どもが生まれるんですが、妻が育休を取ってほしいって・・・。」

「えっ、育休・・・どのくらいとるの？」

「2ヶ月とりたいです。」

「うち、そんなに暇じゃないよ・・・」

医師Aは無理だ～、と思ったが、このご時世、育休を拒否できないのは承知している。
医師Bも家庭の事情から引き下がれず、申し訳なさそうにしながらも懇願。
しかし当院の状況では連続1ヶ月が限度。1ヶ月の育休、で話はついた。

熊本労災病院の紹介



病床数410床、27診療科、
常勤医師数80名 初期研修医12名

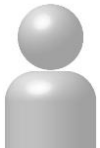
熊本県南地域最大の急性期病院
救急車受け入れ数 1日平均12.54台

地域の最後の砦

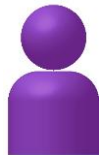
R6年度 耳鼻咽喉科スタッフ



医師A（女性）入局29年目、指導医



医師B（男性）入局8年目、専門医



医師C（男性）入局5年目、専攻医



医師D（男性）入局7年目、専門医（週1非常勤）

R5.4月～R6.3月 耳鼻咽喉科診療実績

入院患者数	新患者数	624人
	延患者数	4,541人（12.4人/日）
外来患者数	新患者数	1,545人
	延患者数	8,624人（35.5人/日）
手術件数		592件

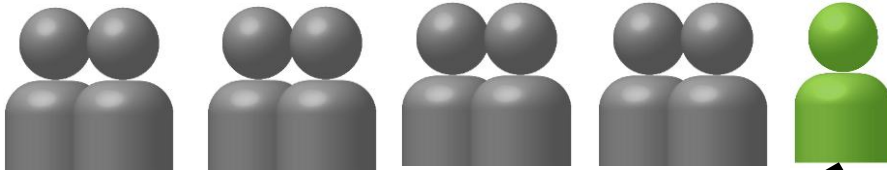
熊本県の耳鼻咽喉科常勤勤務医の状況

熊本県人口：約170万人（全国23位）

熊本市

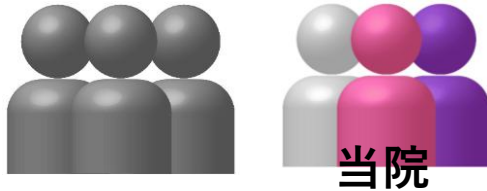
熊大病院：14名＋大学院生4名

関連病院5



八代市

関連病院2

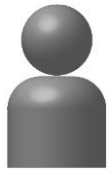


週1回
非常勤

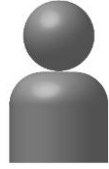
当院

その他

玉名市：

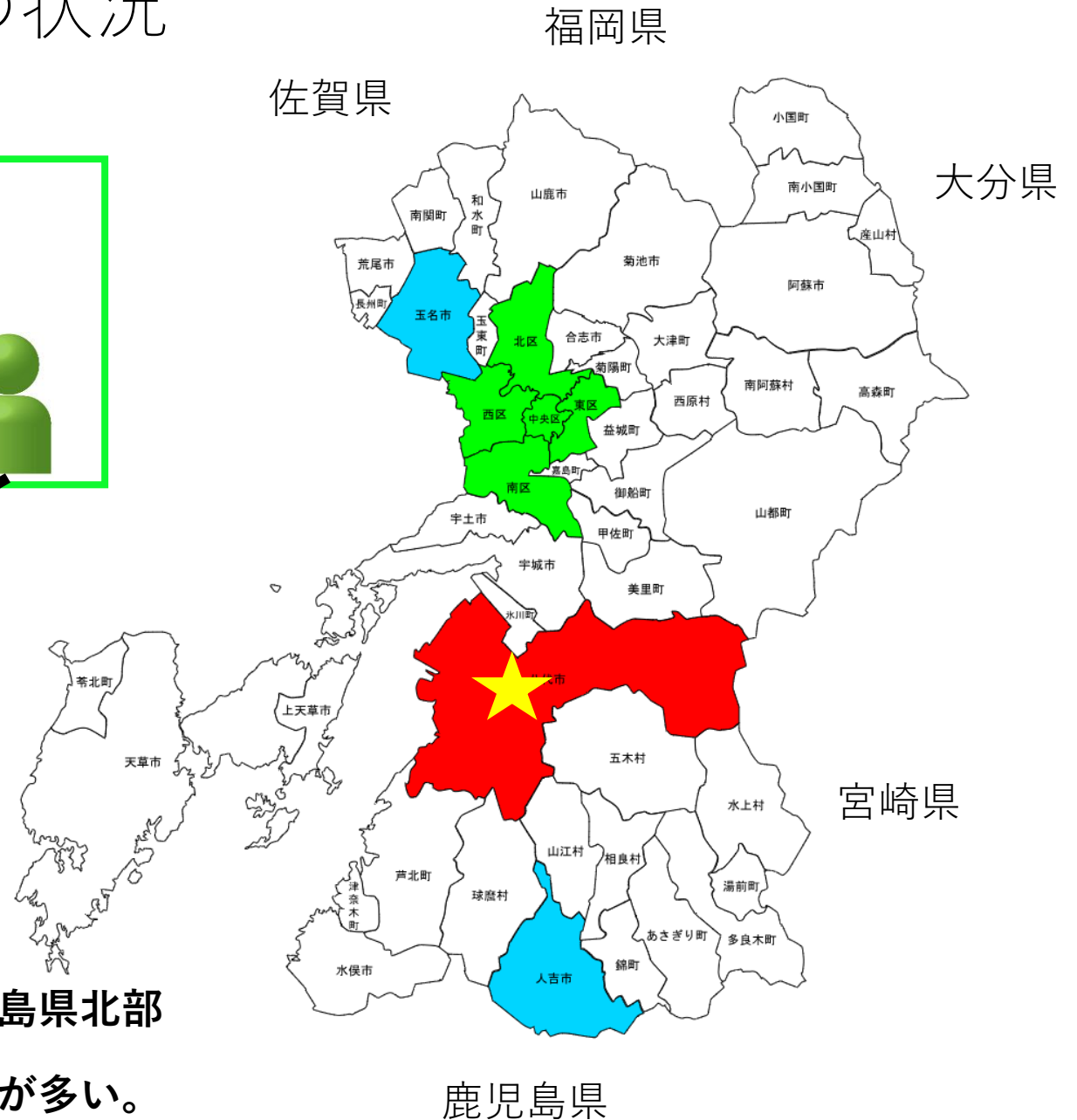


人吉市：



当院のエリア：熊本市より南部の全域、天草地域、鹿児島県北部

どこもギリギリで頑張っている。むしろ当院が一番人員が多い。
よそをあてにはできない。

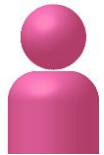


日耳鼻子育て支援賞のことを知り、スライドを見てみた。

医師Aの正直な感想

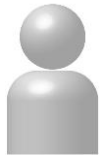
- ✓大学病院は人が多いのでひとりくらい休んでも大丈夫でしょ。
- ✓大学院生の育休は楽勝じゃん。
- ✓都会は周囲に他の病院があるので、頼れるところがあるよね。

地方の医師の多くは、うちには無縁の話、と思うのでは。
ここにも格差あったら、ますます地方の入局者は減ってしまう・・・。

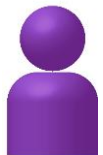


A

「うちが地方病院での育休対策を出して賞金とる！」



B



C

「・・・」

急に育休に前向きになった医師Aと
若干引いている部下2名



元々当科が行っている医師負担減対策例

- ✓クリニカルパスの充実（パス36種類、パス使用率96.4%）
- ✓手術・治療説明同意書の充実（同意書ひな形86種類、ほぼ書き換え不要）
- ✓時間外は急患、入院患者ともオンコール医に連絡
（1ヶ月あたり：医師A 8～9日、医師B 11日、医師C 11日）
- ✓耳鼻咽喉科の深夜救急はほぼめまいか鼻出血。めまいは救外当直医が入院させパス入力→翌朝耳鼻咽喉科に連絡。夜間出勤を極力減らしている。
- ✓外来担当医師1名につき看護師1名、Drクラーク1名が診療サポート。

患者数が多くなっても対応できるように、普段から医師の負担を減らす方法を考え、コツコツと対応している。

今回事前に行ったこと、行わなかったこと

行ったこと

- 医師Bの再診予約をできるだけ翌月以降に回す
- 医師A、Cも少し再診予約を減らす
- 予定手術数も若干減らす
- 週1回大学院生の手術応援依頼（元当院常勤医）
- 当科の外科系救急車対応当番（週半日）を外科に依頼

行わなかったこと

- 新来患者、救急患者の受け入れ制限
- 学会・出張の制限（医師Aは学会1回、会議1回出張）

耳鼻咽喉科診療状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日平均 新患者数	6.1	7.6	5.4	7.0	6.7	5.6	5.6	6.2	5.0
1日平均 再診患者数	28.9	32.6	27.7	31.1	31.3	30.4	29.8	30.8	34.1
新規入院数	52	58	48	82	59	44	58	51	50
手術件数	53	57	40	61	67	37	40	64	42
収入額 千円	37,786	43,782	30,594	45,465	43,343	27,895	36,175	42,649	34,555

数字的には診療制限した影響はほとんどでなかった。

時間外労働時間（法定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
医師A	29	24	24	0	19	0	7	21	0	13.8
医師B	32	31	休	73	58	16	52	14	27	33.7
医師C	25	48	64	0	5	0	30	19	7	22.0

赤字は月60時間越え (時間)

6月は医師Cの残業時間が増えたが、7月は医師Bが頑張った。
（7月は医師Aがコロナ罹患、医師Cは専門医試験直前だった）
それでも疲弊するほどの仕事量にはならなかった。

結論：全然大丈夫だった

少人数の病院で円満に育休をとるコツ

診療面の工夫

- ✓支障がない範囲の診療制限：当院の至上命題は救急患者の受け入れ。それ以外の部分で少し縮小する。
- ✓患者の9割は定型的疾患。パスなどを活用してルーチンワーク化しておく。

良好な人間関係

- ✓お互いに信頼関係を築けていることが最も大切。
- ✓「いつも頑張っている人」の休暇取得には誰も嫌な感情を抱かない。
- ✓当然の権利です、のような態度はとらず、周りへの感謝を忘れない。
- ✓自分も「助けてもらおう立場」になる可能性があることを認識する。

問題点：

- ✓1ヶ月くらいなら対応できるが、連続2ヶ月以上は厳しい。分割ならOK。
- ✓育休明け直後は残業時間が増えた→それは家庭的にはNGでは？
- ✓2名以下の病院ではかなり診療制限しないと難しいと思われる。

提言

地方の少人数病院でも工夫次第で育休は可能です。

あきらめる前に前向きに検討してみましよう！